

運営状況の報告

目次

1. 運営状況について
2. 介入事例（2件）
3. 事故報告

1. サービス利用者の推移について

サービス利用者の推移について（令和7年4月から9月からの推移）

		令和7年度					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
総数	要介護1	1	1	1	1	1	1
	要介護2	1	1	1	0	0	0
	要介護3	2	2	2	1	1	1
	要介護4	3	3	2	2	2	2
	要介護5	2	2	2	3	3	3
	月別総数	9	9	8	7	7	7
	要介護度平均	3.4	3.4	3.4	3.9	3.9	3.9

日中（8時～20時）の訪問実績について

1日の平均（4月～9月）

定期訪問回数 平均：約12件／日

随時訪問回数 平均：約0～1件／日

随時対応回数 平均：約0～1件／日

夜間（20時～8時）の訪問実績について

1日の平均(4月～9月までの平均)

定期訪問回数	<u>平均：約5件／日</u>
随時訪問回数	<u>平均：約0～1件／日</u>
随時対応回数	<u>平均：約0～1件／日</u>

3.介入事例①

対象者の詳細

【基本情報】

70歳代 男性 要介護1

【家族構成】

奥様と長女様同居。夜のみお仕事のため不在

【既往歴】

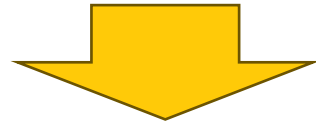
心不全、脳梗塞、胃潰瘍、一過性脳虚血（後遺症として左不全麻痺・複視・感覚障害・高次機能障害）

【利用経過】

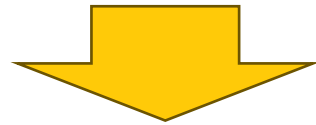
1日3回の食事提供、服薬支援と手段的日常生活動作の見守り

事例内容

- ・利用中に一過性脳虚血を発症して入院。退院後から不安感からのパニック症状現れる→不眠、夜中の通報や娘様への連絡が頻回に
- ・緊急時や怪我の際に即座に対応を行うなどのこまめなサポートが積み重なる



- ・必要時の手厚いサポートにより、本人の中での安心感が芽生える
- ・関係性の構築により、日常生活にもゆとりが出るようになる



結果として自立支援の場面が見えてくるようになった

事例内容

家族様の視点

- ・支援開始時は本人へのパニックへの対応に疲労されており、長女様も体調を崩されたり、「しんどいんです」とヘルパーに本音を漏らされることもあった
- ・定期巡回が介入することで家族様の身体への負担が軽減
→手作り料理の日が増える、更衣の声掛けなど支援の協力をしてくださるようになるなど変化が現れた

3.介入事例②

対象者の詳細

【基本情報】

90歳代 女性 要介護5 看取りケア

【家族構成】

次女様（キーパーソン）、長女様、弟様、妹様 日中は独居で週に2回ほど次女様訪問あり

【既往歴】

レビー小体型認知症、脳梗塞、パーキンソン病

【利用経過】

1日4回の食事・水分の介助、排泄介助、服薬支援、入浴（清拭）

事例内容

- 認知症と脳梗塞の周辺症状とパーキンソン症状の悪化にて次女様が泊まり込みで介護をされていたが、負担が大きいため、定期巡回利用開始
- 傾眠状態が増えたため、脱水、低栄養状態のリスク
→本人の意向に沿って利用途中より看取りケアに切り替わる
- 急変時は訪問看護やケアマネジャーに連絡を行い、こまめに様子観察を行っているので、本人様の生活をチームで連携して支えている

事例内容

- 体調が安定しない場合は訪問回数を増やしている
→ こまめな安否確認を行うことで、本人様と家族様に対する安心感を提供
- 支援については次女様在宅時は一緒に介助を行っている。介助の方法やケアについてなど定期巡回より都度助言を行っている
→ 職員一人ひとりへの労いのお言葉や職員の体調のことについて気にかけてくださることが増えた。

3.事故報告

事故の内容について

事故件数（R6.12～R7.9）

- ヒヤリハット・・・1件 事故・・・3件
- 事故の内3件全てが薬に関する事故でした。
- 具体的には2件は服用忘れ、1件は2重服用になります。

事故後の対応について

- 事故が起こった際はすぐに訪問看護に連絡して指示をいただく。その後に家族様とケアマネジャーに報告をする
- 事故後は速やかに全職員間で話し合いを行い、原因の追究と今後の対策を出し合いまとめる
- 事故の記録は残し、対策案も記録に残すようにしている